

## 【奨励賞】

団体名	静岡県立浜松工業高等学校定時制 「地元工業系企業への在学中就業支援事業」
活動の内容（概要）	浜松商工会議所と連携し、本校定時制生徒をすぐにも雇いたい工業系企業と、そうした企業で昼間就業したい本校生徒をマッチングした。この背景には浜松地区の製造業の低い求人充足率（約 35%）と、本校生徒の工業系企業への低い在学中就業率（約 10%）がある。2年目の本年度は参加企業が倍増し、マッチング率も改善した。また事業を開始してから本校入学生の志望動機に変化が見られた。

### 受賞理由（審査委員のコメント）

○非常に現実的ですぐに生徒のキャリア選択の啓発的経験が就職につながる施策である。特に定時制、ものづくりの学校という特色を生かした動き方で商工会議所との協働も成功している。特に職場体験がアルバイトに結びつくというところは定時制高校の強みである。参加費無料の工夫は素晴らしい。また学校と商工会議所の役割分担がはっきりしているのも継続性を担保できると思われる。マッチング率改善により発展性が期待できる。全国の定時制高校のモデルケースとなるのではないかと期待する。

○他校へもお勧めしたい「浜松モデル」

○定時制高校の特色を生かしたキャリア教育の取組であり、「浜松モデル」と自負できるような、全国への好影響が期待できるプログラムである。地域企業の人材確保にも資する取り組みであり、就職マッチングを意識した活動は地域ものづくり企業にとって大きなメリットがあるだけでなく、学生にとってもキャリアの第一歩につながるというメリットがある。

○ものづくり産業への人材供給の点を評価したい。

○評価項目どれをとっても良かったと思います。推薦のポイントとしては大きく2つです。まず、1つ目、卒業だけを目標としている場合が多い定時制高校の生徒に体験を通して、自己有用感と学習意欲の向上が見込まれる実践的なキャリア教育の機会となっていること。特に具体的な取り組みの工夫として、②では、生徒や企業の負担がないことで、インターンシップに取り組みやすい工夫がされていることや、③の生徒の実態やニーズに沿ったインターンシップから、即時就業、アルバイト就業が開始され、卒業後の正社員就業が見込まれるなど、就職までの道筋が明確だけでなく、学ぶことと働くことがつながっていること。2つ目に単に働き口が見つかるだけでなく、高校での学習内容が現場で即時的に活用されることを体験することで、学習意欲の向上が見込まれ、「定時しか受からない」から「浜工業定時で働きながら学びたい」等生徒の変容だけでなく、教員や企業にも変容が見られ、深刻な人手不足や後継者がいないなどの問題を解決する「キャリア教育」の仕組みが協働できている。

### 連携・協働している機関や団体、組織

【行政（首長部局等）や地域・社会（NPO法人やPTA団体等）、産業界（経済団体や企業等）】

「浜松商工会議所」及び「地域の製造業を主とした工業系企業各社」（株式会社 いなさ、内田工業株式会社、株式会社 エイ・エム・シー、株式会社 エーエムリンク、榎本工業株式会社、金子コード株式会社、株式会社 河合光機、株式会社 桜井製作所、三実精工株式会社、三立製菓株式会社、株式会社 ジーアクト、城北機業株式会社、シンス工業株式会社、新日本ホイール工業株式会社、杉山メディアサポート株式会社、スヤマビルドサービス株式会社、株式会社 Takayanagi、東海冷熱工業株式会社、株式会社 東洋鐵工所、株式会社 浜建、株式会社 浜名ワークス、ハマニ株式会社、株式会社 浜松ハイテッ

ク工業、浜松ヒートテック株式会社、平岡ポデー株式会社、マブチ工業株式会社、株式会社 マルイチ、三井工機株式会社、株式会社 ミヤキ、株式会社 明和工業、ヨコスカ工業有限公司)

### **活動開始の経緯**

浜松工業高等学校定時制の課程（以下、本校）は、「働きながら学びたい」ニーズから 1921(大正 10)年に開校した浜松工業補習学校にルーツをもつ夜間定時制高校であり、また本校は「地域産業発展のため、まずは教育から始めなければならない」という産業界の先達の卓見によって、本県に初めて設置された工業教育機関でもある。そうした役割は、地域製造業が若手人材不足に悩む現代において、むしろより重要になってきていると言える。しかし後述するように、本校の就業状況は現状この役割を十分に果たしているとは言い難く、このままでは地域の産業界に将来にわたって小さくない影響を及ぼしかねない。そこで本校進路課が 2022 年 3 月に浜松商工会議所に企画を持ち込む形で、本事業が始まった。

### **「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など**

本校は夜間定時制の課程でありながら、正社員就業しつつ修学している生徒は 1.4%、アルバイトを含めても 50%であった（本校調査、2022）。また工業高校でありながら、工業系に就業している生徒はわずかで、多くは大手チェーンの飲食・小売業へのアルバイト就業であった（同調査）。一方で浜松地区の工業系企業、特に製造業は人手不足の状態であった（求人充足率約 35%：浜松新卒ハローワーク調査、2022）。そこで本校進路課と浜松商工会議所は、地域工業系企業に未就業工業系定時制生徒という若い労働力を提供し、深刻な人手不足や後継者問題を解決することで、「ものづくりのまち浜松」を持続可能にしていくために協力した。これは生徒にとっても単に働き口が見つかるだけでなく、学校での学びが即時的に現場で活用できる体験を通し、学習意欲と自己有用感の向上が見込まれる実践的なキャリア教育の機会となる。そうした理念を共有しつつ、生徒側の窓口を本校が、企業側の窓口を浜松商工会議所が担当し、それぞれのニーズを集約ながら「DCAP(まず行動し、失敗ながら改善する)」で事業を進めた。

### **「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など**

まず本事業は既存のリソース内で完結させることで新たな人件費や固定費等も発生させない上、仲介業者も必要としないため、事業継続への障壁となる金銭的なものが存在しないことが特徴である。従って企業・生徒とも参加費無料で実施できている。企業の参加条件は「工業を学んでいる本校生徒を雇用したいこと」と、学校行事に配慮した就業時間の調整を含めた「生徒の学業との両立に協力できること」の 2 点のみであり、採用活動へ回せる資金の多寡が、その成否に直結することのないようにした。また一般的に生徒が負担するインターンシップ保険料は、受入企業が一時的に支払ったうえで、相当の助成金を浜松市から受入企業に支出することにした。

昨年度マッチング率が 17%にとどまった反省から、今年度は生徒の保護者や中学校教員へも情報を提供する形で実施している。保護者については、既に実施した 2 回の企業講話において事前に参加を促す通知をしたところ、のべ 30 名の参加があった。このこともあり今年度はマッチング率 26%（10 月現在）に改善した。中学校教員については、進路担当教員対象にした本事業の説明会を 11 月に実施し、この地域の未来のために理念を共有し協働していく。

### 「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

製造業企業各社は、冷房の設置や、オートメーション化、クリーンな環境整備等によって、旧来の悪いイメージを払拭する努力をしてきたが、世間的には依然旧来のものが根強い。そのため企業は高校生に直接企業説明をする機会を求めている。

一方、「地域製造業のアルバイト求人情報が、ネット検索で出てこない」ことに加え、「工場は中が見えず、どんな人と働くのか、どんな作業をするのかが分からない」という不安により、本校生徒のほとんどは在学中の就業先に製造業を選べていない。そのため本校生徒は中の人顔が見える形の求人情報を得る機会と、仕事を実際に体験することで不安を解消する機会を求めている。

こうした双方のニーズに応えることができる4つのキャリア教育を実施した。本校進路課長、浜松商工会議所担当者それぞれの視点から、ものづくりのまち浜松では工業系定時制生徒が求められていることを理解する「事前説明会」。企業が直接高校生に会社説明ができ、本校生徒は顔の見える求人情報を得られる「企業講話」。実際に仕事を体験し不安を解消しつつ、即時就業を前提とした3日間の「インターンシップ」。無事マッチングに成功すれば「アルバイト就業」が開始され、原則として卒業後の正社員就業が見込まれている。

なお「事前説明会」と「企業講話」の運営は本校が、企業の募集業務は浜松商工会議所が、企業の選定は両者が協議して行っている。インターンシップは本校と浜松商工会議所が助言しつつ、企業が計画をして実施している。



く企業説明会の様子。単に業務内容の説明にとどまらず、その社会的使命や、アルバイトを就業した場合の労働条件も含んだ内容になっており、生徒は自分事として集中して聞いていた。>

### 「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

マッチング率が改善したことにより、「地域工業系企業に適切な若い人材を提供する」(=「本校の生徒が工業の学びを生かせる就業先を見つける」)という、本事業の目的は果たされてきている。しかし本事業の成果はこれにとどまらず、例えば工業系企業の実際の体感を通して生徒に生じた向上心が新



くインターンシップの様子。単なる職場体験ではなく、直後からの就業を前提としたものであり、生徒は緊張感を持って主体的に取り組んでいた。>

たな学習動機となり、本校の授業は事業実施前に比べ活性化し内容も深化している。またこれまで「近いから」、「座学が少ないから」が半数以上を占めていた本校入学生の志望動機は、事業開始により「在学中から工業系で働きたいから」が2.3倍増加し、「卒業後工業系で働きたいから」と合わせ半数以上を占めるようになり、工業系への就職意識の高い新入生を増加させている。さらに企業担当者が本校の課題研究発表会の審査員として参加し、発表生徒に産業界の視点から工業的知見を示すなど、「地域ぐるみの教育」も始まっている。

これらを継続・発展させ、本校が勤労青少年のための学校としての本来の役割を取り戻すことにより、「ものづくりのまち浜松」の持続可能な発展はより確実なものになるだろう。

なお本校からスタートした本事業は既に浜松地域定時制全校へ広がりを見せている。こうした取組は「浜松モデル」として日本商工会議所から取材を受け、会議所ニュース記事を通して全国的に注目される事業となった。今後は同様な悩みを持つ他地域へ「浜松モデル」の普及を目指したい。

#### **学校現場の評価・感想・コメント**

- 参加企業の説明を聞くことで、学校での学びの内容が明確になり、工業系実習・一般教科を問わず、目的意識を持って授業に取り組む生徒が多くなった。（管理職）
- 入学を希望する生徒・保護者から、本事業についての質問が出てきている。本校を志望する理由の一つとなっていると感じる。（管理職）
- 本校での基礎的なものづくり実習が、地域産業を支える技術に繋がっていることを認識し、意欲的に授業に取り組む生徒が増えていると感じる。（工業科教諭）
- 就業体験に参加した生徒の多くは、ものづくりのための基本技能（ノギスやマイクロメータの扱い、図面の読解等）の重要性を実感するようになったと感じる。（工業科教諭）
- 一般教科の学習についても、特に物理と化学でこれまで多くの生徒が敬遠していた内容に、諦めずに理解しようとする生徒が多くなった。（一般教科教諭）

#### **関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど**

- 生徒達、企業側、双方にとってとても良い事業だと思うので引き続き継続していただけたらと思います。学校で勉強したことを活かせる職場へ就職することを推奨してもらえることを期待する。  
（㈱浜松ハイテック工業）
- 各生徒が社会人となった時、職業教育を通じて学んだことを即戦力として活躍できる期待感がある。  
（東海冷熱工業㈱）
- 当社もインターンシップ生を受け入れたことで、今の学生がどんなことを考えているのか知れたり、何より未来への可能性が無限に広がっているそのエネルギーがまぶしかったりと、いろいろな学びがあった。学校に戻ってからも、それまでとは目つきが変わって自分の将来について考えるようになっていたとの先生のお話も伺い、本当に受入れてよかったなと思った。（浜松ヒートテック㈱）